

# BLUE TIE WIND ENSEMBLE

2021 **12/7** TUE.  
**18:00** START  
**(17:30 OPEN)**

～ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い～

- ・マスクの着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

# GREETING

本日はご来場くださり誠にありがとうございます。  
まだまだ楽観は出来ませんが、今回もお客さまの前で演奏することが出来、喜びを感じております。

今回の曲目はバロック時代の音楽から現代まで、しかも作曲家の国はドイツ、アメリカ、イギリスそしてイタリアと多種多様です。飽きることの無い時間を楽しんでいただけたと思います。

指揮者は山下一史先生で、私がブルー・タイウインド・アンサンブルの担当者になってから三度目の登場です。学生たちの熱い思いを受け止めて更に熱い音楽を皆さまに届けてくれると思います。

それでは最後までお聴きください。

ブルー・タイウインド・アンサンブル企画運営責任者  
渡邊 功

ISAO  
WATANABE



# PROGRAM

## J.S.バッハ (J.P. ペイントナー 編曲) / トッカータ、アダージョとフーガ ハ長調 BWV 564

Johann Sebastian Bach (1685-1750) // arr. John Phillip Paynter (1921-1996) //  
Toccatà, adagio und Fugue C dur BWV564

トッカータ Toccata

アダージョ Adagio

フーガ Fuga

## J.マッキー / 翡翠

John Mackey (b.1973) // Kingfishers Catch Fire

第1楽章 雨上がり に Following falls and falls of rain

第2楽章 翡翠 焰の如く輝き Kingfishers catch fire

～休憩～

## N.ヘス / イーストコーストの風景

Nigel Hess (b.1953) // East Coast pictures

第1楽章 シェルター・アイランド Shelter Island

第2楽章 キャッツキルズ The Catskills

第3楽章 ニューヨーク New York

## O.レスピーギ (佐藤正人 編曲) / 交響詩「ローマの祭り」 P.157

Ottorino Respighi (1879-1936) // arr. Masato Sato (b.1959) // Feste Romane P.157

第1部 チルチェンセス Circenses

第2部 五十年祭 Giubileo

第3部 十月祭 L'Ottobrata

第4部 主顕祭 La Befana

# PROGRAM NOTES

## J.S.バッハ（J.P. ペイントナー 編曲）／ トッカータ、アダージョとフーガ ハ長調 BWV 564

ヨハン・セバスティアン・バッハ（1685-750）は18世紀頃のドイツで活躍した作曲家、及び鍵盤楽器の演奏家である。バロック音楽の後半に活躍し、後の西洋音楽の基礎を作り上げたバッハは、「音楽の父」とも称される。

この曲はバッハがオルガンのために書いた曲をアメリカの作・編曲家ジョン・P・ペイントナー（1928-1996）が吹奏楽版に編曲をした。題名の通りトッカータ、アダージョ、フーガの3曲で構成されている。「トッカータ（toccata）」とは『触れる』という意味を表す動詞「トッカーレ（toccare）」からきていて、速いパッセージや細かい音形の変化を含み、オルガンやチェンバロなど鍵盤楽器の調子を見るための試し弾き、という意味の即興的な楽曲である。「アダージョ（Adagio）」は『くつろぐ』という原義のイタリア語であり、音楽では『ゆっくりと』『静かに』という意味を表す速度記号である。「フーガ（fuga）」は対位法を中心とした楽曲形式のひとつである。同じ旋律が色々なパートで演奏され、主題提示部が構成される。本日演奏する吹奏楽編曲版では冒頭の主唱をクラリネットの1stに、2ndと3rdが応唱として追いかけて、その少し後にクラリネットの1stが対唱と呼ばれる新しい旋律を奏でる。このような提示部がフーガの中には様々な楽器により複数回現れる。

パーカッション 3年 入江 美咲

## J.マッキー／翡翠

ジョン・マッキー（b.1973）はアメリカのオハイオ州ニューフィラデルフィアで生まれる。両親は音楽家であったが音楽の手解きを受けず、彼自身は楽器の演奏ができない。しかし、作曲の勉強を続けジュリアード音楽院、クリーヴランド音楽大学へ進む。卒業後は数多くの委嘱依頼を受け、吹奏楽やオーケストラ、ダンスやバレエの為の作品も手がけている。日本ではコンクールやコンサートのメイン曲として彼の作品を演奏することが多い。また、普段の吹奏楽曲とは違い、巧みなりズムが個性的で20世紀の現代音楽の様式を組み合わせたクロスオーバー作品であることが魅力である。

この曲は2007年3月に日本管楽合奏指揮者会議の特別バンドにより初演された。マッキーはこの曲について「翡翠（かわせみ）はとても美しい色の羽を持った鳥で、太陽の光に照らされた姿はまるで燃えているかの様である」と述べている様に、翡翠の鮮やかな姿を美しく描いている。

**第1楽章 雨上がりに** 激しい雨が止んだばかりの静かな朝、翡翠がゆっくりと巣から現れる希望を静かな雰囲気表現している。

**第2楽章 翡翠 焔の如く輝き** シリアスな1楽章とは対照的に快活なテンポで、翡翠が太陽の光に向かって飛び立っていく様子をイメージしており、体内からエネルギーが湧いてくるような生命力に満ち溢れている。

クラリネット2年 北池 莉々夏



# PROGRAM NOTES

## N.ヘス／イーストコーストの風景

ナイジェル・ヘス (b.1953) はイギリスの作曲家。英国王立シェイクスピア劇団の座付き作曲家として活動した彼は、演劇や映画など作品に付随する音楽を制作する傍ら、シンフォニックバンドのための作品も制作している。

この曲は作者自身が最初に出版した吹奏楽曲であり、代表作として高く評価されている。「組曲『イーストコーストの風景』は3つの“絵”から作られているが、私自身が何度か訪れたごく一部のアメリカ東海岸から着想を得たものである。それらの訪れた地域は、特徴的であった。」と作者が述べている。ヘスが訪れたニューヨークと、その周辺のリゾート地の情景と印象を3楽章からなる組曲で描写している。

**第1楽章 シェルター・アイランド** シェルターアイランドは夏のリゾート地として人気のある地だが、冬は悪天候なことが多く閑散としている。大西洋の荒波にもまれる冬の週末のシェルター島に、作者が訪れた際の良き思い出が情景として描かれている。

**第2楽章 キャッツキルズ** キャッツキルとはニューヨーク州北部に位置する山地の名前である。その山地の静かだが力がみなぎり平穏だが威厳のある、一度訪れたら忘れられない魅力が描写されている。印象的な旋律をホルネットの独奏を中心に、様々な楽器で奏される。

**第3楽章 ニューヨーク** マンハッタンの奇抜で素敵な街中の喧騒と活気が描写されている。ニューヨークの中心のエネルギッシュな情景を、パークッションのリズムやスピード感のある旋律によって描かれている。救急車両と思わしきサイレンが鳴り響き、楽曲の最後の盛り上がりを作る。

トランペット 3年 溝口大輔

## O.レスピーギ (佐藤正人 編曲) ／ローマの祭り

オットリーノ・レスピーギ (1879-1936) はイタリアの都市ボローニャに生まれ、1908年まではヴァイオリンとヴィオラ奏者として活躍していた。1913年からはローマの教育者になり、後に作曲と指揮活動を始めた。彼の作品の中で代表作とされているのが、ローマの街の風景や歴史に題材を取った『ローマの三部作』と言われる3つの交響詩。1916年に作曲された「ローマの噴水」、1924年に「ローマの松」、そして1928年にこの「ローマの祭り」が作曲された。

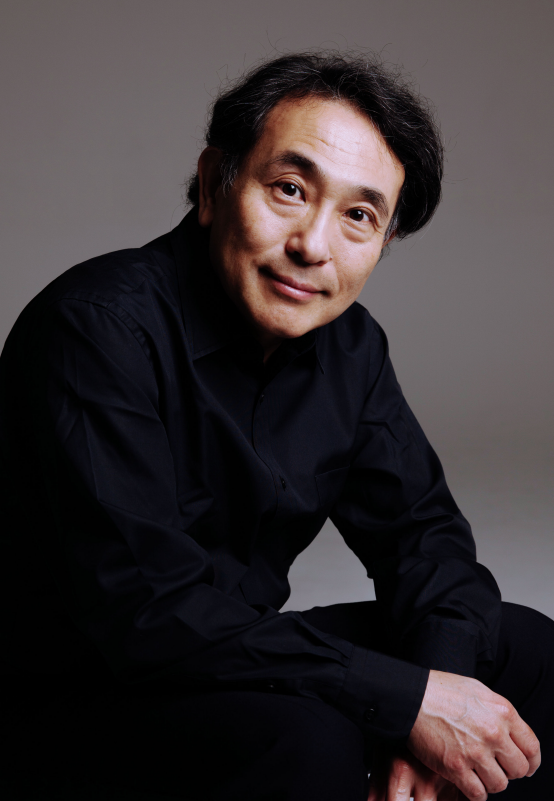
**第1部 チルチェンセス** 古代ローマの悪名高い皇帝ネロが、大円形競技場で行った民衆のための底抜け騒ぎの祭りを意味している。その影でキリストは残忍なやり方で侵害を受けた。賑わいの中で聞こえる歌声は、彼らキリスト教者の臆することのない歌声を表している。

**第2部 五十年祭** 昔、ローマで50年ごとに開催された教皇大赦の祭りである。巡礼者たちが祈りながらローマに向かい、歓喜の喜びと聖歌の歌声が聞こえ、そして教会の鐘が鳴り響いていく。

**第3部 十月祭** ローマの郊外の葡萄酒を生産するローマ市東南カステッリ・ロマーニで開催される秋の収穫祭。鐘の音、歌い交わされるマンドリンのロマンティックな愛のセレナーデ。

**第4部 主顕祭** 1月6日のキリスト御公現の祝日の前夜、ナヴォーナ広場にて、特徴のあるトランペットのリズムが騒ぎを掻き立てる。田舎風の歌、サルタレロの舞曲、物売りの声、これらによる底抜けの騒動の中、「我らはローマ人だ。道を開けろ」と聞こえる。曲は次々に拍子や速度を変えながら、情景を鮮やかに描き出していく。

チューバ 2年 澤田翔也



# CONDUCTOR

指揮者 山下一史

# KAZUFUMI YAMASHITA

1977年桐朋学園高校音楽科に入学。チェロを井上頼豊氏に、指揮を尾高忠明、小澤征爾、秋山和慶、（故）森正の各氏に師事。1982年「第17回民音指揮コンクール」で奨励賞を受賞。

1984年桐朋学園大学を卒業後、ベルリン芸術大学に留学、1986年デンマークで開かれたニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで優勝。

1985年12月からカラヤンの亡くなるまで彼のアシスタントを務め、1986年、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の演奏会で、急病のカラヤンの代役として、急遽ジーンズ姿のまま「第9」を指揮、話題となる。その成功以来、ザルツブルク・フィングステン音楽祭でカラヤンのスタンバイ指揮者として契約。ヘルシンボリ交響楽団（スウェーデン）の首席客演指揮者を務めた。

日本国内では1988年「若い芽のコンサート」でNHK交響楽団を指揮してデビュー。オーケストラ・アンサンブル金沢プリンシパル・ゲスト・コンダクター、九州交響楽団常任指揮者を歴任。大阪音大ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団常任指揮者を務め、2005年秋には、新国立劇場より松村禎三《沈黙》公演が招待され、東京の音楽界にも衝撃を与えた。2008年4月より同団名誉指揮者。2006年4月からは仙台フィルハーモニー管弦楽団に指揮者として迎えられ、R.シュトラウス「英雄の生涯」などのCD制作など積極的な活動を展開。2009年4月から2012年3月まで同団の正指揮者を務める。また、2011年2月にはシューマン作曲歌劇「ゲノフェーファ」日本舞台初演や、2013年1月、2016年3月には水野修孝 歌劇「天守物語」公演など、現在、オペラ、オーケストラの両面において着実な成果を積み上げている指揮者として、ますます注目を浴びている。

2016年4月より千葉交響楽団音楽監督に就任。

「おらがまちのオーケストラ」をスローガンに、千葉県民一人一人に愛されるオーケストラをめざし、オーケストラの一層の発展に努めている。

また、東京藝術大学音楽学部指揮科教授として後進の育成にも心血を注ぐ。

2022年4月より愛知室内オーケストラ音楽監督、大阪交響楽団常任指揮者に就任予定。



# 洗足学園音楽大学

## ブルー・タイ ウインド・アンサンブル



洗足学園音楽大学では「演奏の洗足」と掲げ、年間約 200 回の演奏会を開催。中でも「吹奏楽研究」においてはたいへん力を入れており、4つの吹奏楽団体が企画運営責任教授、指導教員の指導の下、日々研鑽を積んでいる。

1年生だけのフレッシュマン・ウインド・アンサンブルと、其々着用するネクタイの色で呼ばれている上級生バンドのグリーン・タイウインド・アンサンブル、ブルー・タイウインド・アンサンブル、そして洗足学園音楽大学を代表するフラッグシップバンド、洗足ウインド・シンフォニーの計4つである。

記憶に新しいところでは、2012年第66回ミッドウエスト・バンドクリニックにおいて、ブルー・タイウインド・アンサンブルがジェリー・ジャンキン、池上政人各氏指揮の下、大成功を収めた。

ブルー・タイウインド・アンサンブルは管打楽器コースの2~4年生で構成され、渡邊功講師が中心になり企画運営している。吹奏楽のオリジナル曲、オーケストラの編曲作品、最新の音楽を区別する事なく積極的に取り入れ意欲的な活動を展開している。

# MEMBERS

Concertmistress	齋藤 遥			
Flute	朝日 一輝 筒井 さくら 松崎 まり	金巻 未悠 金子 幸恵	酒井 瑠菜 行徳 ほのか	田嶋 智翠 鈴木 佑菜
Oboe	奥野 彩	宇治 愛 ♪	土屋 愛菜*	
Clarinet	大堀 清楓 長島 太一 大木 舞 ♪ 町田 貴紀*	齋藤 遥 北池 莉々夏 上條 里彩 ♪ 山形 珠慧*	高橋 祐希 佐々木 音美 矢ヶ崎 貴史 ♪	中田 紫乃 関田 稜祐 杉田 愛実*
Bassoon	福原 佑紀	鹿山 唯	塚田 有果*	
Saxophone	今川 萌 長谷川 莉子 岡本 真尋 山中 杏実	宇座 麻理那 三橋 正長 久米 愛海 加藤 恵莉菜	片岡 夏望 山口 紗弥季 酒井 優希 亀澤 咲葵	木下 佳音 伊藤 輝瞳 中條 花音 山崎 遼介
Horn	小秋元 歩 神野 了丞*	中野渡 真咲 中津 里菜*	山本 海音	浅田 万結 ♪
Trumpet	石垣 静流 芦川 大樹 谷口 諒 鹿野 円香 佐々木 右京 ♪	伊吹 梓 宇津木 清来 細谷 侑生 鈴木 ころ	岡本 桃花 加藤 早弥乃 溝口 大輔 藤原 くるみ	森 猛流 錦古里 愛 池谷 彰恩 磯野 沙弥香 ♪
Trombone	林 剛潤	平野 結梨香	裏木 りりあ	小野 航
Euphonium	佐藤 頼星 武田 美智 佐々野 広雅	加藤 千聖	市村 結衣	大島 成実
Tuba	鈴木 湧太 渡部 陽菜	土谷 紗央里 澤田 翔也	吉海 風龍 高島 佳樹	吉田 怜生
Contrabass	井上 美冬*	平木 晶穂*		
Percussion	池本 羽奈 入江 美咲 近藤 寛斗 加藤 海夏太	鈴木 皓大 大塚 愛美 佐藤 綾香 山野 智広	高橋 芽生 岡澤 七海 杉本 裕香 渡邊 拓斗	吉野 萌 金正 紗也加 星 陽華
Piano	和田 桃歌 ♪	松尾 沙衣 ♪	渡邊 穂乃佳 ♪	
Organ	中澤 未帆*			
Mandolin	小長井 翼 ♪			

♪...学生賛助 \*...演奏補助要員

企画運営責任者	渡邊 功			
トレーナー	飯吉 高			
指導教員	泉 真由 飯島 泉 大貫 比佐志 久永 重明 府川 雪野	前田 綾子 郡 尚恵 貝沼 拓実 林 辰則 福田 昌範	田淵 哲也 中舘 壮志 田村 真寛 本間 千也 小倉 貞行 高橋 芽生	新井 清史 皆神 陽太 小林 祐治 篠崎 卓美 小川 佳津子
インスペクター	朝日 一輝	小秋元 歩		
助手	土屋 莉帆			
アカデミックコーディネーター	海野 匡代			